

18. 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R522)

文献

伊藤和憲. 治療抵抗性疼痛患者に対する頭皮鍼通電刺激の効果. *慢性疼痛* 2018; 37(1): 120-125. 医中誌 Web ID: 2019084692

1. 目的

鍼治療を行っても効果が認められない破局的思考が強い線維筋痛症患者に対して頭皮鍼通電を行うことの意義について検討。

2. 研究デザイン

比較試験 (登録順に群分け)

3. セッティング

明治国際医療大学附属鍼灸センター、京都、日本

4. 参加者

6 ヶ月以上継続的に鍼灸治療を行ったにも関わらず大きな症状の改善が認められなかった線維筋痛症患者 12 名 (52.3±14.5 歳)

5. 介入

Arm 1: 頭皮鍼通電群 6 名 (基本鍼灸治療+頭皮鍼通電)

両側の頭維に横刺し、100 Hz・15 分間の通電を実施

Arm 2: 対照群 6 名 (基本鍼灸治療のみ)

治療は原則として週 1 回

6. 主な評価項目

介入前・介入終了後・介入終了 1 ヶ月後に、主観的な全身の痛みを Visual Analogue Scale (VAS)、QOL を Japanese version of the Fibromyalgia Impact Questionnaire (JFIQ)、不安・抑うつを Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS)、破局的思考を Pain Catastrophizing Scale (PCS) で評価。経時的な変化を面積化したエリア・アンダー・ザ・カーブで群間比較。

7. 主な結果

痛み VAS と JFIQ は群間に有意差なし。HADS と PCS は頭皮鍼通電群で改善する傾向があり群間に有意差あり。

8. 結論・意義

鍼治療を行っても効果が認められない破局的思考が強い線維筋痛症患者に対しては、頭皮鍼通電が有効である可能性が示唆された。

9. 鍼灸医学的言及

前頭前野部の頭皮を経皮的に鍼通電刺激することで反復経頭蓋磁気刺激や頭皮直流電気刺激と同様な効果が得られるかどうかを検討した。

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

この著者は線維筋痛症患者に対してセルフケア手段を含む様々な治療法の臨床効果を検証してきており、この研究もそれらのひとつと位置付けられる。著者も考察している通り、サンプルサイズから考えてこの研究結果から頭皮鍼通電の有効性を結論するには限界があるし、治効機序についても脳内を直接刺激する方法と同等に扱うことはできない。ただ、鍼灸治療はかなり多彩で異なるアプローチがあるので、このような予備的比較試験 (n はもう少し大きくし、患者基本データも示すべきだが) を地道に繰り返す中から有望な鍼灸治療法を絞り込んでいき、最終的には最も有望と思われる鍼灸治療の手法を本格的なランダム化比較試験によって検証し、通常治療と比べてどのような益が患者にもたらされるのか明らかにされることを期待している。

12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.9